

千曲市地域防災拠点・道の駅基本構想（案）に対する意見募集結果

○8人・1団体 87件の意見がありました。

○貴重なご意見ありがとうございました。提出された意見の概要及び市の考え方は次のとおりです。

○いただいたご意見は『位置づけ・必要性』『コンセプト』『防災機能』『地域振興機能』『その他の機能・施設』『施設配置』『スケジュール』『その他』に分類しております。

■位置づけ・必要性

	意見の概要	市の意見
1	全体的に見ると道の駅は上手くいっていない方が多数で行政が主導した道の駅には、赤字分を指定管理料として、補填しているような道の駅もたくさんあります。道の駅がそのような赤字で、毎年税金を垂れ流すという施設になるリスクが大きいと思います。そうならない根拠を示していただきたいし、根拠がないのであれば、計画を再考し、道の駅とセットにするのはお止めいただきたいと思います。上手くいっていない上田の道と川の駅と同じような状態になると思います。	行政負担の軽減や収益性の向上施策等について参画可能性のある事業者や関係団体等との意見交換を重ね、官民連携による整備・管理運営手法の採用も念頭に基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。
2	本構想案では、「地域防災拠点」整備をメインに掲げながらも、平時・有事における利用形態（特に災害時における箇所ごとの利用の仕方）の記載がなく、農業・観光・生活サービス等地域活性化を主眼においた拠点の整備を主目的とした印象である。地域活性化拠点整備も重要な施策であることは間違いなく、理解するところではあるが、復興計画・総合計画をはじめ過去の調査（千曲市民意識調査等）などからも、「防災」は世代を超え市民の多くが高い関心を持っている事項であることから、今回あえて抱き合わせの構想案とすべきではなく、整備の目的（千曲市の防災における強みと弱みは何なのか）を明確にしたうえで切り離し考えるべきと思慮するが、見解を頂きたい。	本施設の整備にあたっては、平常時・災害時を問わないフェーズフリーな活用を念頭に、災害時の地域防災拠点としての機能を重要視すると同時に、平常時の地域振興施設としての利活用も検討する必要があると考えています。ご指摘いただいた災害時・平常時の利用形態については、今後基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。
3	（本文）交通結節機能 24時間利用可能な道路休憩施設が必要である → 坂城更埴バイパスは国道18号坂城町南条から千曲市屋代まで延長19, 2kmのバイパス事業だ。現在八幡から稲荷山まで3kmが開通しており稲荷山から長野市塩崎まで2, 6kmの工事が進められている。開通するのがまだ不明なのに、長距離トラックなどが走っていないのに道路休憩施設が必要なのか。国道18号には栗佐地区に国交省の情報ステーションがある。 （元近藤市長も前岡田市長も18号バイパスが開通したら考える、と答弁している）	国道18号バイパスにつきましては、事業中区間の建設促進と未事業化区間の早期事業化を国に要望しております。本事業は完成までに一定の期間を要することから国道18号バイパスの稲荷山から塩崎バイパスまでの開通を見据え、現時点から整備を検討していく必要があると考えています。

	意見の概要	市の意見
4	（ウ）来訪・再来訪に繋がる魅力発信 → 「防災・道の駅」が来訪・再来訪に繋がるか、長野県には52の道の駅がありほぼ全県を網羅している、人口密度の高い長野市、千曲市、須坂市、坂城町には駅がない（千曲市道の駅（地域防災拠点）設置可能性概要調査報告書より） なぜないのか、必要があれば設置するが必要がないからである。「道の駅」の変わりには「コンビニ」であり、高速道路の「サービスエリア」があるからである。千曲市の特産を販売し来訪して購入する農産物はあまり見当たらない。仮に「杏」を例に出しても今までの政策はあんず狩りに来てもらうようPRや、杏を利用した千曲ブランドなど推進してきたが、今はその政策もない、またリンゴやブドウがあるとの指摘もあるがその季節だけでは「防災・道の駅」で来訪が期待できない。	年間を通して地域内外の皆様に利用していただける地域の魅力や暮らしを底上げする施設となるよう、官民連携による整備・管理運営手法の採用を念頭に基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。
5	（エ）交流人口の増大 → 必要性はあるが「防災・道の駅」での交流人口が増大するとは考えられない。魅力を発信する場所はそれぞれの観光地の近くでなければならない、あるいは交通の要衝でなければならない。18号バイパスではなく国道18号である。（栗佐地区には国交省が設置した『更埴ステーション』がある。これが国交省の言う『道の駅』機能である）	
6	全く魅力のない道の駅になるのでは。千曲市としてどんな道の駅をつくるのかが全くわからない。	

	意見の概要	市の意見
7	千曲市第三次総合計画の中の「災害時に避難が可能で、救援活動や復旧・復活の拠点となる地域防災拠点（防災道の駅）の整備を推進します。」 となっているがこの内容が今回の推進の内容なら下記の点について ① 地域防災計画の中に5 災害応急対策等への備え（風水害―1－5）（4として災害時に救援活動や復旧、復興活動の拠点となる防災拠点の整備を促進する と書かれているが、 i、この文言は防災計画ができた後すぐに追加された文章である。何故最初から書かれなかったのか、なぜ出来上がった後に加えられたのか。 ii、備えとして、職員や市民との連絡、情報の共有、緊急避難場所や、避難所などは公共施設等の活用を図る（今ある公共施設を活用する、緊急避難所は130数か所各地域にある）民間との連携を強める、平時からタイムラインの作成や訓練や研修等を行う、など現在ある公共施設や、企業とのタイアップ、個人の避難方法などをどのように活用するかの方針を出しているが、（4）だけ新たに設置するとなっているが方針にそぐわないと思うが。どのような目的で新たに加えたのか	近年の災害の激甚化・頻発化に対し、地域防災拠点の整備が急務と考えています。しかしながら、施設整備にあたっては、災害時のみならず平常時の利活用も検討する必要があるため、地域振興拠点としての整備も検討しています。関係機関や参画可能性のある事業者等との意見交換を重ねながら、事業性を踏まえた導入施設を検討してまいります。
8	② 第二次国土利用計画、都市計画マスタープランとも、「防災・道の駅」を目指しているのではなく「道の駅」を目指している。何故この中に載せたのか	
9	地域防災拠点と道の駅について、施設としての優先順位はどのようにお考えでしょうか。特に道の駅の事業性について検討されていますでしょうか。	
■コンセプト		
10	道の駅を特徴付ける表現は・・・例えば 月、そば、姨捨	ご意見を踏まえ、基本計画の事業コンセプトの中で今後検討してまいります。
11	市全体の道の駅コンセプト（案）のため、魅力のないものとなった。八幡への設置を前提に再検討が必要。導入機能も同じ。その上で月の里は数々あれど平安時代から「名月の里」として多くの文人墨客が訪れる著名な地。出店したい、行ってみたい魅力として「名月の里」が必要	
12	コンセプト（案） 活力ある地域社会を創造する持続可能な多機能拠点～千曲市の農業・自然・文化を生かし、安心安全で豊かな暮らしを創造する～	ご意見を踏まえ、表現を修正します。

	意見の概要	市の意見
■防災機能		
13	本構想案（本文P12）では、市内全域は「ほとんどが災害危険区域」でありかつ「車で避難できる場所が少ない」との課題から、「一時避難」先としての機能（駐車場の確保等）に絞り、当拠点の必要性を謳っているが、予定施設は市全域から多くの市民が一度に避難できる大きさは想定、有していないと推察される。また、令和元年東日本台風時に特に被災が甚大だった市北東部からは、予定施設へは千曲川の渡河が必要であり、距離もあることから避難先として適当でないと思われる。この場所の選定経過と、そもそもこの構想案でいう「地域」とは市内全域ではなく、八幡地区とその周辺を指すと思われるが、その認識で良いか。	本施設は国土交通省の認定する「防災道の駅」ではなく、主として川西地区の方々の一時避難所として周辺の避難所・避難場所と連携し、地域防災に資する施設として整備することを予定しています。
14	復興計画に謳われている「被災からの迅速な復旧」には、過去の事例などから、被災後に市内外からの人や物資を円滑に受け入れ、救援救護活動や復旧支援活動などを速やかに実行していくことが求められると想定されるが、本構想案ではこのような機能は付されていない。そのような機能は市内で既に十分補完できているという認識で良いか。それとも別計画にて進んでいるのであればそれを教えて頂きたい。	
15	（本文）そこで、本市では地域の防災拠点として機能する「道の駅」の一体的な整備を検討するとなりました。 ・具体的にどのような「防災・道の駅」なのか、説明がない。市長の公約でもなく、市民から要望があったのでもない。なぜ検討するのか。 能登半島地震の内容があるが、その前は令和元年の東日本台風により甚大な被害を受けた、と記されている。これは水害であって地震災害ではない。また国交省の災害対策拠点は「のと里山空港」であり広域防災拠点として機能を発揮した。こうした拠点を目指しているのか。 多くの「道の駅」も被害を受けた。その中で「千枚田ポケットパーク」はヘリポートとして活用、「赤神」では入浴環境提供、「すずない」では日本赤十字や薬剤師会が臨時医療施設を開設、いずれも国交省とタイアップしている「道の駅」である。（ヘリポートは地域防災計画 風水害—2—28で指定されている） 文章の内容が水害と地震による災害と2つ記されている。共有した防災拠点なのか。国交省と設置する広域型の「防災道の駅」なのか。一体型（国交省とのタイアップなのか、市の単独の「道の駅」なのか（国交省の道の駅の機能は栗佐地区にある「情報ステーション」）	

	意見の概要	市の意見
16	1 2 ページ 3 地域防災拠点・道の駅の必要性 から （本文）防災 市内全域のほとんどが災害危険区域となっており、車で避難できる場所や駐車スペースもないことから、地域の防災拠点が必要である。 → 市民のほとんどがこの地域に車で避難する場所なのか、市民全員が駐車できる可能なスペースを設けるのか。（板倉町は基本的な考え方として一家に一台の駐車場を確保することになっている。人口は14,027人避難する人9,365人66,8%、板倉町と千曲市は目標が違う） 水害の内容だけで地震の災害についてはどのように安全なのか。 なぜ、地域の防災拠点が後に出てくる「川西八幡地区」なのか、他の地域は必要ないのか	
17	6 18 ページ～ 立地計画 令和3年度「千曲市道の駅（地域防災拠点）設置可能性概要調査報告書」において八幡地区が最適地と記されている。この選定条件は国交省の「地域防災拠点」を基にしている。具体的な指標として、 ・概ね3ha程度の面積をもち、平坦で生計な敷地が確保できること。 ・防災拠点として機能させるには駐車台数は1,000台、約2haが必要。 ・千曲市の参考となる道の駅は3ha以上の規模を有しています。（22ページ） この国交省の認定する「防災道の駅」は現在ある道の駅にエントリーしてもらい国交省が認定する。（12ページ）これを新たに設置する場合はこうした条件が必要となります。といった内容だ。この「防災道の駅」国交省の認定する「広域防災道の駅」を予定しているのか。それはハードルが高すぎると（総務文教常任委員会R\$.3.11提出資料 道の駅の現状等につて）令和5年6月の定例会で市長が規模を縮小して地域振興などを考えたい。と説明している。 サウンディング調査の規模は1haである。	
18	（ア）国道18号坂城更埴バイパスの防災機能の向上 → 前項でも述べたが「坂城更埴バイパスは国道18号坂城町南条から千曲市屋代まで延長19,2kmのバイパス事業。現在八幡から稲荷山まで3kmが開通し稲荷山から長野市塩崎まで2,6kmの工事が進められている。完成までの期日は不明、このバイパスがなぜ防災機能の向上になるのか。（市長の所信表明の中に消防本部の分署の考えがあるとしているが現在の本部から分署を設置するには25～30名の職員が必要とする、費用負担も増える、設置すれば坂城も要望するだろう対応できるか疑問だ。平成29年度に川西地区区長会が要望書を提出した際の答弁）	消防署設置については現時点で予定はありませんが、重要な地域課題の一つと捉えています。

	意見の概要	市の意見
19	16～17ページ 導入機能①地域防災拠点 地域の一時的避難や情報取得及び発信を主軸とした地域防災拠点の形成 → 地域の一時的避難場所は防災計画に載せてある。各地区にある公共施設（130数か所）や提携した企業等がある、この場所には八幡小学校がある、また「アクティオ」が災害に対する協定を結ぶと約束をしている。近くの「ツルヤ」は県契約が、「パチンコダイナム」は駐車場を提供できる契約を、「ホームセンター」は最ギア協定を結んでいる。防災訓練も公共施設を中心に実施している。防災訓練の変更をするのか。（避難場所の確保等風水害—1—35地域防災計画） 情報取得・発信を主軸とした地域防災拠点 → 千曲市の防災拠点は庁舎4階応接会議室・庁議室に設置する（風水害—1—12）	本施設は、避難施設の1つとして地域防災計画に位置づけることを予定しています。また、防災訓練等の防災にかかるソフト事業については随時見直しを行ってまいります。
20	産官学連携について 記載の計画には、産官学連携についてはありませんが、地域防災について特に大学やその他の研究機関との連携や将来を担う若者が地域防災を学ぶことができるような構想はございませんでしょうか？	大学その他研究機関との産官学連携や若者が地域防災を学ぶことは大変重要だと考えていますので、ご意見を踏まえ今後の取り組みの中で検討してまいります。
21	■パブコメ案 P.17 P.22「7施設概要（導入施設1）導入施設の整理 表7-1導入施設（案）」について、地域防災拠点として必要な施設を、一次整備（短期）、二次整備（長期）に分けて整理することは重要であると考えます。 本文内容に賛同するとともに、国土交通省の「業務継続のための官庁施設の機能確保に関する指針（平成28年改定：国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課）」にも記載されている2種類以上のエネルギー源確保に関する追記をすることを提案いたします。 変更前：太陽光パネル 変更案：太陽光パネル、蓄電池、都市ガス、LPG、非常時に稼働できる設備（発電機、空調機等）等、2種類以上のエネルギー源を確保（←こちらの文言も入れてはどうかとパブコメを提出いただきました）	非常時に十分なエネルギー源が確保できる機能は大変重要だと考えていますので、基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。

	意見の概要	市の意見
22	地域防災拠点として、トイレトレーラーを一機備えておく。災害時には必ず使えるトイレである。平時はイベント時に活用できるトイレとして会場に移動して使用することで、市民の理解が広がりトイレトレーラーの費用対効果が認められ、防災力も高まる。併せてコンテナハウスの設置も	導入施設の内容については、基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。
■地域振興施設		
23	千曲線にある「綿半ホームエイド」「原信」などは生活の利便性が高いことから人口導入を生んでいる。これは千曲線が開通（戸倉に一部を除くが）開通したからである。長野市瀬原田、南長野運動公園、にあるJAは交流人口を生んでいる。こうした施設を考えているのか、千曲市の「あんずの里物産館」のような地域振興施設ではないのか。行政としての役割は施設の設置ではなく、インフラの整備である。地域経済の活性化は民間に任せるべきである。	行政負担の軽減や収益性の向上施策等について参画可能性のある事業者や関係団体等との意見交換を重ね、官民連携による整備・管理運営手法の採用も念頭に基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。

	意見の概要	市の意見
24	地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場となる活動として、そば打ち体験ができるスペースの設置を希望します。 ①さらしな地は玄そばの集散地として江戸時代からその名を全国に知られていました。現在もお品書きに「さらしな蕎麦」を提供するお蕎麦屋さんもあります。さらしなゆかりの地にそばの拠点を作り、特徴ある活動として盛り上げたいと考えます。 ②県内議員有志16名が、長野県を「そば県」にする議員の会を設置した。との新聞記事の掲載があり、全県的にそばに対する機運が盛り上がっている。 ③社団法人全蕎協の正会員である、「姨捨そば道場」は千曲市八幡地区の志川区東集会所に拠点を置いて、毎週そば打ちの研鑽を積んでいます。 ④夏祭り等での出店運営。情報館や創造館での「親子そば打ち教室」の開催などの活動も行い、そば打ちを指導する実績もあります。9月の観月祭にも、そばの出店を計画しています。 ⑤全面協が主催する段位認定会でそば打ち技術を認定された有段者も多く在籍しており、仮に体験教室が開催される場合でも対応が可能です。また、長野市、松本市にも実績や経験が豊富な協力団体もありますので、地域全体で対応することもできると考えます。 ⑥松本市は、信州松本そば祭りを松本城の敷地で開催し、10万人以上の集客をするなど、様々なそばを通じたイベントを開催して盛り上がっています。 ⑦千曲市には、現在そば打ちを体験する機会、施設や場所がありません。そばのイベントもありません。姨捨そば道場が中心となって、そばで千曲市を盛り上げていきたいと考えておりますので、是非とも道の駅にスペースを計画していただきたいと思います。	導入施設の内容については、基本計画の中でご意見を踏まえて検討してまいります。
25	（本文）農業・観光振興 農業振興・観光振興の拠点が必要である。 → 現在ある「あんずの里物産館」をどのように考えるか。観光振興を考えるなら観光地に設置するのが望ましい。農業振興はJAと連携が必要であり、千曲市の特産物は多くの食品量販店や、専門の直売所もある。こうした点をどのように考えるか（令和3年度千曲市道の駅（地域防災拠点）設置可能性概要調査報告書 4ページ）また「千曲ブランド」（千曲市推奨品）を立ち上げ推進していたが現在「千曲ブランド」を推進する政策が無くなっている。	

	意見の概要	市の意見
26	(イ) 地域経済の好循環 → 前項で述べたように千曲市は大型店が過剰である。地元農産物販売をしていた千曲線の「パリオ」(JAが経営)は綿半ホームエイドが進出して撤退した。仮に八幡地区に指定管理で農産物を直売しても近くの量販店にはかなわない。指定管理に補助金を投入して安く販売すれば近くの量販店は物流倉庫にするか撤退してしまうだろう。市内には直売所や地元産を扱う量販店も多い。困るのは利用していた市民やファンの皆さんだ。民間を圧迫させる政策だ。(稲荷山温泉の二の舞はしてはならない) *地域で経済を生み、生産性を高めていくのは行政ではなく民間だ。逆に民間が「なんでも行政に金を出してもらおう」という姿勢でいる限り、その地域が活性化することはない。行政も「税金で手助けすれば地域で楽に事業ができる」という過信を持つと支援なしで事業に取り組んでいる人がその地域からどんどん少なくなってしまう。衰退を招くことになる。	
27	16～17ページ 導入機能 ② 農業振興拠点 地域産業を活性化させる販売機会・認知・体験機会の創出 → 市内には産地直売所、量販店の直売コーナーなどが多くある。これらを刺激してはならない。わざわざ施設をつくるのではなく、民間と生産者やJA等との取り組みが大切と考える。	
28	16～17ページ 導入機能 ③ 観光情報拠点 交流人口の増加に資する地域の魅力発信拠点の創出 → 地域の魅力発信拠点は必要と考える。ただ地域の魅力を発信する政策がない。信州観光局とのタイアップを進めることが大切である。	
29	ほかの地域の賑わいがある道の駅は、なにかしら特長や呼び物があり、それを目当てに人が来ている。それが観光にもつながっている。レストラン・農産物直売所等計画にあるが、年間を通じて特色あるものが提供できるのか？ただのトイレ休憩する駐車場では、騒音問題等で要らないというのが住民の総意と感じる。	
30	農業・観光振興の外に既存の出荷所やガソリンスタンドとともに、市内店舗や食品会社などの出品・工業製品など紹介等相互連携した商工業等との連携も視野に入れる。	

	意見の概要	市の意見
31	1 期工事から目玉が明確であること。・姨捨棚田の景勝地を十分活かした施設。・地域の顔＝川西地域に広がる歴史文化の特徴を前面に出した設計。・地域振興施設→「果物・野菜の里」、「月の都」として例えば毎月お月見イベントや月見に合う料理、お月見できる2階建てのカフェ。・地産地消の直売所で食堂経営(うどんやそばの、あんずカレー)	
32	一次整備では施設は農産物直売所のみ。農産物は年間通しての安定供給はできない。	
33	農家のほか農業体験・観光農業に対応できる総合的な取り組みを行うモデルの展開。既存の栽培など営農指導・講習会、生産資材・農薬・農機(アグリサポート)販売・貸出、農作業の受託・施設の利用に加え遊休・荒廃対策(農地流動化促進事業、集落営農・農地の担い手育成、基盤整備、農地の有効利用等)	
34	農業振興で体験型農業を進めて頂きたい、候補地㊟を中心にバイパス西側の農地を速く借り上げて簡単な整備をし、果樹苗木を植えたり花用にパイプハウス等設備を準備してもらいたい。そして、いずれは道の駅スタッフが面倒を見ていければいいかな、と思います。	
35	地図に文化財・観光施設を表示し、観光案内だけでなく、地域資源を活かした散策コースやイベントの開催、体験交流など“観光文化交流拠点”	文化財・観光施設の現状を追記するとともに、導入施設の内容については基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。
36	武水別神社(旧称「八幡宮」)・大頭祭や県史跡「松田家館跡」に近接し連携した取り組み	
37	姨捨スマートICの「月の里」との提携、長楽寺や姨捨観光会館等、道の駅と観光地・人気サービスエリアをネットワークでつなぐ。・千曲市の道の駅と長野市や上田市の道の駅とネットワークを構築し、災害時に協力したり、物資の協定を結び、防災力を高める。・千曲市内の観光地(飲食店)や他の道の駅、観光地への情報発信やネットワークの結節点として「ハブ的存在」となる道の駅にする。	

	意見の概要	市の意見
■その他の機能・施設		
38	導入施設案について 地域防災拠点としての位置づけから「災害時」の記載が軸となっているが、昨今の猛暑・酷暑も想定し、熱中症対策としてのクールシェルター（指定暑熱避難施設）については、表5-1の総合的な防災機能に含まれているものなののでしょうか？	熱中症対策も含めて適切な冷房設備、屋内で安心して見守りができる場所を整備することは大変重要だと考えますので、基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。
39	遊具の考え方について 子育て支援施設（遊具等）と記載されていますが、本市及び近隣市町村については一般的な屋外遊具の整備は進められている中、圧倒的に屋内での子育て及び見守りができる環境が不足していると感じています。中野市のHUBLIC NAKANOのように先進的な施設こそ基本理念にある来訪・再来訪に繋がるものと考えます。 導入施設については屋外への単なる遊具の設置ではなく、屋内かつ、クローズドな環境で安心して見守り（ご高齢の祖父祖母などがお孫さんを連れている姿を多くお見掛けします）ができる仕組みづくりを検討していただきたいです。	
40	（本文）住民生活 地域住民の生活利便性の向上に資する施設が必要である → 千曲市は多くの量販店が存在する。予定地の近くには「つるや」「ナフコ」「コメリ」「原信」「あいに一」など存在する。買い物難民の対応ならバイパス沿いではなく交通の不便な地域に設置すべきである。買い物難民を救うのは「道の駅」ではなく「コンビニ」である。	周辺施設との機能分担も含め、住民生活の生活利便性の向上に資する施設の内容については、基本計画の中でご意見を踏まえ検討してまいります。
41	生活必需品等の販売は過剰なほど存在する。公共サービス窓口機能はこの施設ではなく公民館に設置すべきである。	

	意見の概要	市の意見
42	候補地①②同時スタートか、隣接民間施設（コカ・コーラ配送基地）の買収、②との交換等を検討・交渉すべきでは。この方が敷地の中央を通学路が通ることが避けられる。	候補地は、立地計画でお示した通り候補地①が最適と考えております。事業地の拡張については、現時点では未定です。本施設の開業後、運営状況やニーズを踏まえ、検討を進める予定です。
43	平均的な道の駅の施設に加えて、この道の駅の「大きな特徴・魅力」となるような「新施設」の設置	
44	物販施設と休憩イトイン施設は最初から計画すべきだと思います。	
45	①だけで当面（場合によれば３年以上数年）スタートするようなこと（案）は、検討した結果の案として考えられない。①だけで当面スタートする場合でも、農家レストランに換えて集客力のある食堂・レストラン（例：信州新町の「そば信」の「棚田店（仮）」の招聘他）位が必要。	
46	道路利用者や地域住民に安全安心な地元産品を提供するコンビニ的な直売所とともに、雇用創出や地域の中心的な商業施設	
47	定住人口の増加を図るため、空き家や就労情報、地域の魅力を体験し、町づくり組織や商工会・観光事業者などと連携したイベントを通じ、道路利用者や地域住民同士の交流、情報発信など地域の絆を育てる住民と旅人の交流施設	
48	食堂やレストランがなければトイレ利用だけ大型トラックの無料休憩駐車場になり、市民にはなんのメリットもない。	
49	道路利用者の快適なドライブ実現のため、２４時間トイレや駐車場、休憩所、循環バスの停留所など	
50	駐車場はキャンピングカーの拠点として、大池の駐車場と連携。・観光シーズンに左右されず、日頃「道の駅」利用者を増やせる。	
51	ガソリンスタンド(0.35ha)にEV充電設備、西壁の撤去で一体化	
52	２）イメージ例のような情報発信施設防災・観光情報200インチ超大型マルチディスプレイ	
53	バリアフリー化によって障がい者に優しい道の駅に設計し、子育て世代にも高齢者にも安心してきてもらえる道の駅にする。トイレや夜の時間帯にトラブル回避のため、防犯カメラを設置。	バリアフリーや防犯に配慮し、誰もが安全・安心して利用できる施設となるよう検討してまいります。

	意見の概要	市の意見
■施設配置		
54	図7-2ゾーンニング配置計画検討図で、第1駐車場の出入り口は、バイパス側になるか？北側の道路からは出入りがあるのか？小学校通学路の配慮はなされるのか？	小学校通学路の安全性には留意して、基本計画の中で施設配置・車両動線計画を検討してまいります。
55	陸橋のある中道線は小学生通学路になっているため道の駅への出入りは困難。	
56	近隣住民の騒音対策については検討があるのか？例えば深夜時間帯は侵入禁止にするとか。（最近は道の駅で車中泊する人が問題になっています） 2次整備エリアについて、隣の八幡小学校の教室と近いため、騒音（こども広場が気になります。堺に植林をするとか対策はされますか？（防音壁は景観が・・・）	騒音や防犯に配慮した施設計画を基本計画の中で検討してまいります。
57	表3-2「近隣道の駅比較」のように敷地面積、施設規模、交通量等の調査を行い、4拠点機能の必要面積(避難車両数、誘客数等)から立地計画を検討すべきでは	導入施設、規模、施設配置については基本計画の中で検討してまいります。
58	⑦(1)導入施設 最終形を提示させ、1期、2期の図面をもとにテナント配置と収支予想が大切です。	
59	市はガソリンスタンドとコカコーラの間9141号線の6m道路を整備するとしているが、特にバスや大型車はガソリンスタンドの交差点を拡幅しても出入りは困難では？	車両導線や周辺道路の拡幅については、基本計画の中で検討してまいります。
60	道の駅は①で良いと思いますか、バイパスからの車の出入りがスムーズに出来る様にする工夫が必要です。先ず大道線をバイパス交差点からJ A支所迄を完全二車線に拡幅すること。 J A西部営農センターの土地を一体的に買収し、コカコーラ工場周囲を通して中道線の交差点近くに回れるようにするなど、バイパスを通る車が道の駅に入りやすく、また入りたくなる様にするなど、例えばバイパスを5車線化して大道線と中道線の交差点の間でも両車線から道の駅に出入り出来る様にするなど。	
61	非常時の避難車や大型支援車両の出入り、ぶどう祭渋滞などから交差点や18号バイパスと県道長野上田線(八幡宮・松田館)の接続、また周辺文化・観光・教育・事業所など(⑥(2)1)との接続から1級市道9140大道線・2級市道9130中道線・その他市道9505号線の【外周道路の拡幅】を行う。これにより出入口は多数可能。	

	意見の概要	市の意見
■スケジュール		
62	短期①・長期②③の期間、進め方は？市の回答：構想段階である。②③は将来的に検討するエリア①土地を確保、優先整備、②③は含みを持たせているが地主の予定もあるので具体的に明示してほしい！市の回答：現在は何も持ち合わせていない、運営事業者と協議する中で②③は考えて行きたい	候補地は、立地計画でお示した通り候補地①が最適と考えております。事業地の拡張については、現時点では未定です。本施設の開業後、運営状況やニーズを踏まえ、検討を進める予定です。
63	①②③は案としてあり得るが、第1次整備の①と次の②、そして③がそれぞれどの位の期間を置いて開設されるのか不明。①の施設内容が、スタートから1、2年以上、直売所・案内所・トイレ・農家レストランだけでは魅力・話題性がなく、集客力は低く、経営収支確保はとても望めない。	
64	全体像も示されず、二次整備もレストランやカフェ、農産物加工所、芝生広場などを整備するとしているが、いつやるか？スケジュールが示されていない。	
65	段階的な整備を見据えて「短期」「長期」での導入施設の優先順位をつけ、基本計画時掘り下げて検討が必要である。	導入施設の内容、優先順位については、基本計画の中で検討してまいります。
66	基本構想⇒基本計画⇒基本設計・実施設計⇒建設工事⇒開業の年度設定	スケジュールについては、候補地の調査及び周辺の土地利用、関係機関との調整を踏まえ、今後検討してまいります。
67	いろいろの駆け引きはあるがスピード感を持って事業を進める必要あり不明確な内容は基本計画で明確にすれば良い。	基本構想において明確にならなかった部分については、本パブリックコメントでのご意見等も踏まえ、基本計画の中で検討してまいります。
■その他		
68	はじめに（1 p） （本文）しかし、近年、人口減少、少子高齢化が進展する中で → 進展する、は物事が進歩・発展すること、意味するがこの内容だと人口減少は進歩・発展することを意味しているがそのような状況になると判断しているのか。（進む中でよいのではないか）	ご意見を踏まえ、表現を修正します。

	意見の概要	市の意見
69	（本文）持続可能な管理経営 → 公共施設の設置については誰でもが「ないよりあったほうがいい」という。その内容等を説明する必要がある。例として平成１９年に合併特例債を利用して４億数千万円をかけて「竹林の湯」を設置した（補助金年間１，２００万円）。稲荷山には「稲荷山温泉」が以前よりあり多くの人利用していた。この「竹林の湯」の設置を区民は反対したが設置した。客は利用料金が安い「竹林の湯」に移ってしまった。コロナの関係もあったが先行きが見通せないことで倒産してしまった。こうした事件はあってはならない。現在「竹林の湯」が市民の健康増進、地域の活性化に役立っているだろうか。 千曲市総合計画の実施計画の中には令和８年度までに１５億８千万円が計上されている。場所も規模も内容も決まっていなのになぜ実施計画の数字が出せるのか。 公共施設の建設は「設置する時はバラ色だが、管理するのはイバラの道である」	持続可能な施設となるよう設置・管理についても様々な手法を検討してまいります。
70	１６～１７ページ 導入機能 千曲市の公共施設の方針は少子高齢・少子化による人口減少が進む中、「千曲市公共施設等相互管理計画」を策定し、総量を２０４４年までに１３％縮減する目標を立てている。現在新たな公共施設の建設はない。全て建て替えなどの改築案である。	「千曲市公共施設等総合管理計画」に基づき必要な公共施設については改築または更新を行い長寿命化を図ってまいります。が、市民ニーズを踏まえて既存施設の除却や譲渡等を行い公共施設の再編も行なってまいります。公共施設の建設ができないわけではありません。

	意見の概要	市の意見
71	9 27 ページ サウンディング型市場調査 サウンディング型市場調査とは、市有地などの有効活用に向けた検討にあたって、活用方法について民間事業者から意見、提案を求め、「対話」を通じて市場性等を把握する調査だ。「防災道の駅」は何も決まっていない。がどうして有効活用に向けた検討ができるのか。また「対象施設の概要」には候補地、敷地面積、主な施設の内容、導入機能などが載せてある。いつ決まったのか。 また敷地面積 1 ha で八幡地区と場所が決められているが、3 ha 規模の選定地だ。本来この調査は公共施設の運用が上手くいかないから民間の意見を聴きたいといったものだ。内容が違うのになぜこのようなサウンディング調査を行ったのか。	令和6年1月に実施したサウンディング型市場調査は、本施設の計画検討初期段階において、事業内容及び運営方法に対するアイデアを民間事業者から広くご提案いただくことを目的とした調査です。基本計画の策定にあたっては、本構想や市民の皆様からいただいたご意見を踏まえ、事業条件を明確にした上で、民間事業者とより具体的な対話ができる機会を設けることを検討してまいります。
72	基本構想のパブリックコメントを実施しているが、パブリックコメントは政策形成過程のかなり後の段階にあたる。PC（パブリックコメント）により抜本的な方針が変わればこれまでかけたコストが無駄になる。なぜPCまで進んでいるのかその過程が不明である。本来であれば市は審議会等に諮問し、議論を重ね答申をまとめ、その答申を基に市の方針を決めてから、市議会にかけて基本構想を策定し、PCを出すのが手順だ。どのような過程を経て「基本構想」を策定しPCを公募したのか。	本パブリックコメントは、事業を具体化する基本計画を策定する前段階（基本構想の段階）で市民の皆様からご意見をいただくため実施したもの

	意見の概要	市の意見
73	防災道の駅は市長の公約ではない。委員会での答弁では（令和５年６月総務文教常任委員会）あくまでも「川西地区に防災時の迅速かつ的確な初動対応と事前の備えで危機管理能力強化更埴西部地区に防災拠点を設置」が公約であって防災道の駅が公約ではない。ただ防災道の駅ならなお理想的だというぐらいのイメージだ。（委員会答弁） 所信表明では施設の機能、場所、費用等について調査研究を進め、早急に方向性をお示しできるよう取り組んでいく。と発言している。 期成同盟かから出された「請願」（令和２年８月）を市議会が可決しているから進めている、請願の内容は「国交省の防災道の駅」を道路管理者（国）や関係機関との協議や会議を設置しろという内容である。よって担当は「調査」をし、令和４年度３月議会で、委員会に調査報告をした。その結果は「防災道の駅の設置は千曲市には不向きである」との結論を出してある。（令和３年度３月総務文教常任委員会提出資料参考） 令和５年６月議会では諸情勢報告の中で「選定のハードルが高いことから地域振興施設を先行して整備する」と方向転換している。 この「防災道の駅」は市民が望んでいるのか、市民からどのような意見や要望があったのか把握しているのか。議会はどのような意見があるのか。どのような施設なのかも不明であり、情報が市民に何もなく進めていることに問題はないか。 この施設が必要なのか必要ないのか市民に解り易く説明し、議論をしていただきたい。	引き続き市民の皆様のご意見をお聞きしながら進めてまいります。
74	防災拠点としての道の駅として、かねてより川西地区に消防署の設置（分署の併設）をお願いしてきているが、計画は別になるのか？（同じ敷地に出来ないのか）令和元年の台風１９号の影響で、千曲市水害被害時に、千曲川にかかる橋が全て通行止めになった。幸い、急病人がでなかったとおもわれますが、救急車も川西地区に出来ない状態があったことは、千曲市として市民の安全安心な暮らしをささえる観点から、いかに考えるのか？縦割り行政で、この管轄はまた違う部署が行うとかよくある話だが、川西地区住民にとっては喫緊の課題であり、防災拠点「道の駅」計画と、併せて議論、設置に向けて対応を強く要望する。もし、あの時、救急搬送できなくて死亡する方が出たらと考えればおのずと良心が動くものと市政に期待する。	消防署設置については現時点で予定はありませんが、重要な地域課題の一つと捉えています。

	意見の概要	市の意見
75	小学校の児童の安全面から、不審者の発生が懸念されます。八幡地区には交番がなくなりました。駐在所の設置は犯罪抑止力となります。ぜひ併せて対策を検討してください。	駐在所の設置については現時点で予定はありませんが、重要な地域課題の一つとして捉えております。
76	(1) 5) 千曲川だけの浸水想定区域だが県管理の河川も含めるべきではないか（候補地の検討では含めている）	ご意見を踏まえ浸水想定区域は、千曲市ハザードマップ（洪水・土砂災害マップ）に統一します。
77	この様な大きな事業が可能か・・・市として実現可能と考えている、①を深掘りして行くとの回答だが市の財政計画から説明が必要	事業財源については、活用可能な国等の支援メニューも含めて、基本計画の中で検討してまいります。
78	農振解除のためにも表 6-1 八幡地区の概要で国土利用計画（千曲市計画）の地域区分を記載する。	ご意見を踏まえ第二次国土利用計画の地域区分及び西部市街地地域の目標を追記します。
79	洪水マップ上一番安全な場所、農振農用地、国土利用計画の市街地地域、高速・幹線道へのアクセス、大規模な平坦地を利用した防災拠点の具体的な機能	防災拠点の機能については、基本計画の中で検討してまいります。
80	図7-1周辺施設との位置関係では、南北の2kmが切れているため姨捨駅・長楽寺や稲荷山伝建など重要施設・16国県文化財が欠落している。連携のため姨捨SAも表示	文化財・観光施設の現状を追記します。
81	市の予算制限上、段階的スタートとなることを極力避け、スムーズな事業開発・経営管理方法を。	今後、各省庁の支援メニューの活用、適切な整備・管理運営手法を検討し、円滑な事業実現を目指します。
82	管理運営者、出品販売、出店テナントの早期募集	基本計画の策定過程において管理運営計画の立案、農産物・特産品の商品開発・出荷体制等の準備を進めてまいります。
83	イベント等のソフト	イベント等のソフト事業については、関係機関及び参画可能性のある事業者等との意見交換を重ねながら、検討してまいります。
84	国土交通省「道の駅支援メニュー」の活用	国土交通省の「道の駅支援メニュー」をはじめ、各省庁の支援メニューの活用も検討してまいります。
85	18号バイパス坂城方面延伸を推進する	国道18号バイパスにつきましては、事業中区間の建設促進と未事業化区間の早期事業化を国に要望しております。
86	更級地区会長へ期成同盟会参加の打診	各種団体の構成については回答を控えさせていただきます。
87	事業手法・管理運営手法についてはどこまで御検討でしょうか。 運営事業者の魅力ある計画として頂けますよう期待します。	整備・管理運営手法については今後参画可能性のある事業者との意見交換を重ねながら、最適な事業手法を検討してまいります。